



スペシャル・スピーチ

「銃規制&中絶問題」特集は pp.43-57

Aim for Higher Ground

故郷での^{せいさん}凄惨な銃撃事件受け、
ホワイトハウスで演説

マシュー・マコノヘイ

銃規制強化訴える魂のスピーチ

アメリカ・テキサス州のユバルディで5月24日、地元の高校生が小学校に侵入し、銃を乱射、児童19人と大人2人の計21人を殺害する事件が発生した。容疑者はその場で警察に射殺された。銃乱射が多発するアメリカにあってもまれにみる悲惨な事件で、銃規制強化を求める声がより一層高まった。中でもひととき目立つ発信を行ったのが、このユバルディ出身の俳優、マシュー・マコノヘイだった。彼がホワイトハウスで行った演説より一部を抜粋してお届けする。



■ マシュー・マコノヘイ

1969年、米テキサス州ユバルディ生まれ。俳優、映画プロデューサー。キャリア初期には映画『10日間で男を上手にフル方法』（2003年）など、ラブコメ俳優として成功を収める。HIVに感染した主人公を演じた『ガラス・バイヤーズクラブ』（13年）で、第86回アカデミー賞主演男優賞を受賞。名実ともにハリウッドを代表する俳優となり、翌14年にはハリウッドの殿堂入りを果たす。20年、自叙伝 *Greenlights* を刊行し、話題を呼んだ。

60 マコノヘイの故郷で起きた銃撃事件

Uvalde, Texas, is where I was born. It's where my...my mom taught kindergarten less than a mile from Robb Elementary. Uvalde is where I learned to master a...a Daisy BB gun. That took two years before I graduated to a .410 shotgun. Uvalde is where I was taught to revere the power and the capability of the tool that we call a gun. Uvalde is where I learned responsible gun ownership.

Now, Uvalde called me on May 24th, when I learned the news of this devastating tragedy. In a bit of shock, I drove home, I hugged my children a bit tighter and longer than the night before, and then the reality of what had happened that day in the town I was born in set in.

So the next morning, Camila, myself, the kids—we loaded up the truck and we drove to Uvalde. And when we arrived a few hours later, I got to tell you, even from the inside of our vehicle, you could feel the shock in the town.

aim for:
《タイトル》～を目指す、狙う
kindergarten:
幼稚園
Robb Elementary (School):
ロブ小学校 ▶ユバルディ銃撃事件の発生現場。
master:
～をマスターする、使いこなせるようになる
Daisy:
デイズ社 ▶米国のBBガン(空気銃)の老舗メーカー。
graduate to:
(上のレベルに)進む
shotgun:
ショットガン、散弾銃
revere:
～を敬う、あがめる
capability:
機能、性能
responsible:
責任ある
ownership:
所有、所持
devastating:
衝撃的な、打ちのめすような
tragedy:
悲劇
hug:
～をハグする、抱き締める
tight:
しっかりと、ぎゅっと
set in:
定着する、身に染みる
load up:
～に荷物を積み込む
I got to tell you.:
《意見を強調して》本当に、全く
vehicle:
乗り物、車

テキサス州ユバルディは私が生まれたところです。私の母が教えていた幼稚園は、ロブ小学校から1マイルも離れていません。ユバルディで、私はデイズ社製のBBガンの使い方をマスターしました。それに2年かかり、続いて0.410口径のシヨットガンに進みました。ユバルディで、私は銃という道具の威力と性能を敬うことを教わりました。ユバルディで、私は責任をもって銃を所有することを学びました。

そして、5月24日、そのユバルディからの電話で、私はこの恐ろしい惨事のニュースを知りました。少しショック状態に陥りながら、運転して家に帰り、前の晩より少し強く、少し長く子どもたちを抱き締めましたが、やがて自分が生まれた町でその日に起きたことの実感が湧いてきました。

それで翌朝、(妻の)カミラと私と子どもたちは——全員でピックアップトラックに荷物を積み込み、ユバルディに向かいました。数時間後に到着すると、もう本当に、車の中からさえ、町じゅうが衝撃を受けていることが感じられました。